

1 「家庭・地域・学校協議会」の設置と運営

(1) 「家庭・地域・学校協議会」の構成

家庭	学校 (3名)
	学校評議員 (6名)
	区長代表 (2名)
	公民館 (2名)
地域	校区内小学校 (3名)
	地域コーディネーター (3名)
学	・文化振興課職員 (1名)
	・新幹線まちづくり課職員 (1名)
	・商店街組合代表 (1名)

(2) 協議会の開催計画

【開催予定数】 年 3 回

【開催日程および協議内容】

第1回 7月 3日

第2回 11月 15日

第3回 2月 27日

【協議内容】

- ・小中一貫教育による学びの充実
- ・学校評価と学校運営の改善
- ・地域人材の活用と地域の教材化
- ・「つながり」を生かした教育について
P T A、小中学校、地域とのつながり

(3) 協議会における成果と課題

- ・「北陸新幹線開業」に向けた敦賀駅、商店街に多くの人が集まり賑わうまちづくりを、1年生は「現代版おくのほそ道」の作成・発信、2年生は「食文化」の発信、3年生は、東京の「敦賀PR活動」として実施した。それぞれの活動は、地域コーディネーターの相談・支援によって、講師や地域ガイドの準備、PR活動の計画等を円滑に行うことができた。
- ・オープンスクールを活用し、協議会の方々に地域とのつながりを生かした学校経営の進捗を確認いただくことができた。また、保護者や地域の方にも情報発信の場となった。
- ・協議会においては、「P T A」「小中学校」「地域」との「つながり」の現状や今後の方向性に重点を置いて協議できた。今年度、新たに1年生のキャリア教育として「校区の商店街から仕事を学ぶ」学習活動を構築できた。校区の商店街の方に仕事のやりがいや苦勞、工夫点や職種に必要な資格等をインタビューすることにより、生徒は直に職業観を学ぶことができた。

2 地域と進める体験活動

(1) 活動のねらい

校区の地域行事に参加し、地域活動についての理解を深め、地域に主体的に関わり貢献しようとする態度を育てる。

- ・地域素材を活かした活動を通して、ふるさと敦賀の現状を把握し、主体的に課題に関わり、より良いまちづくりに参画しようとする。
- ・地域の人々とのふれあいを大切にしながら、探求・創造・表現の力を培う。
- ・他の地域との比較や関連づけを行うことにより、ふるさと敦賀の良さを再認識する。

(2) 活動の実際

①「地域のよさを再発見・発信プロジェクト」として「現代版おくのほそ道」の作成と発信を通したまちづくり事業 (1年生)

松尾芭蕉の「おくのほそ道」から330年の記念の年であること、そして、北陸新幹線開業に向けて校区が大きく変化していることを捉え、俳句を通して「地域のよさを再発見」し、「地域の発信を通したまちづくり」を、生徒が企画し学習を進めた。5月は、気比神宮や敦賀市立博物館、敦賀ミュージアムなど市内の史跡や施設を巡り感じた情景を詠った。敦賀市観光振興課のサポートにより地域ガイドを招

(様式3)

き、これまで見過ごしてきた敦賀のよさを聞き取り俳句で表現した。11月は、芭蕉の足跡をめぐり、同じく新幹線開業を目指す福井方面を訪れた。また、「現代版おくのほそ道」の制作のためにタブレットを持参し、俳句で詠った風景を撮影した。



これらの生徒の活動は、オープンスクール時に俳句発表会を実施し、保護者や地域の方々に地域のよさを撮影した画像と俳句、そのとき感じたことを伝えることができた。俳句の作り方については、市文化振興課のサポートによって俳句協会の方々に講師に招き、季語やよりよい読み方について指導していただいた。また、報道関係の方々に取材協力いただき、テレビ放送や新聞の地方版の掲載によって1年生の目で見たふるさとを発信することができた。

②「北陸新幹線開業」に向けた敦賀市のPR事業（3年生）

3年生は、1年時からの調査活動やPR活動を生かし、修学旅行先の首都東京でふるさと敦賀のPR活動の実施を企画し学習を進めた。これまで、本市の行政としての今後の取組や、金沢市の観光産業の視点について学習してきたことをもとに、浅草の浅草寺周辺を会場にPR活動を行った。活動当日は、国内外からの観光客に積極的に声をかけ、生徒たちが事前に作成し準備した「敦賀観光PRポケットティッシュ」や市観光振興課からいただいた市の観光パンフレットを手渡すことができた。また、修学旅行の帰りは北陸新幹線に乗り、3年間のPR活動を振り返り、4年後の敦賀につながるイメージを膨らませた。帰校後には、生徒からティッシュをもらった観光客の方から、学校に「敦賀を知ることができた喜びのメール」をいただくことができた。これまでの企画を通して、敦賀のまちづくりには「人と人とのふれあい」こそが、地域を活性化していく大切な土台となることを実感することができた。



(3) 地域コーディネーターの活動概要

- ・活動内容の相談や支援、各種団体と学校との連絡調整

(4) 特に工夫した事項

①学習のねらいを明確化し、課題設定を工夫する。

2023年度の北陸新幹線の敦賀開業を題材として、大きく変化しようとするふるさとの姿や出来事に積極的に関わる意欲を高めるため、「北陸新幹線の敦賀開業に向けたまちづくりのために私たちができることは何か」という共通の学習課題を設定した。

②多面的な見方ができるように学習活動を工夫する。

ふるさとについて多面的に捉えられるように、新聞やパンフレットを活用した調査活動や講師を招いた授業、校外学習における見学や体験活動など学習方法を工夫した。

③地域の大人と触れ合う機会を多く持つ。

地域の方に協力していただき、ふるさとについての認識を深め、社会と積極的につながろうとする意識を高める工夫をした。

3 成果と課題

- ・「北陸新幹線の開業に向けたまちづくり」に関わる学習活動は、生徒にとって身近な課題であり切実感ある活動を展開できた。また、生徒一人一人の市民意識を高めることができた。
- ・大きな成果として、3年生を中心とした「北陸新幹線開業に向けたまちづくり」の取組が認められ、「第13回キャリア教育優良教育委員会、学校及びPTA団体等文部科学大臣表彰」を受賞することができた。「家庭・地域・学校協議会」において、喜びを分かち合うことができた。
- ・生徒の活動の進捗状況と今後の方向性を「家庭・地域・学校協議会」で協議することによって、校区の捉え方を「学校周辺」から「実際の校区」にまで広げていく必要性を感じた。愛発地区や中郷地区の豊かな自然や歴史・文化を、生徒の「まちづくり」の意識とつなげていく新たな視点を加え、今後も地域の方々と連携しながら3年間を見通したカリキュラムを構築していきたい。

(様式 3)